2021年パレスチナ解放闘争～中東の新たな動き

2021年1月29日　重信房子

2021: Palestine's Chance of Fighting Back

If 2021 is to bring about any positive change in the trajectory of the Palestinian struggle for freedom, new strategies would have to replace the old ones

動き出す中東 2021 年。「トランプ時代」は終わって「バイデン時代」が始まる 2021 年。
中東の当事者たちが新しい動きを開始している。

All 132 seats to the Palestinian Legislative Council
67 seats are needed for a majority

Party	Leader	%	Seats ±
Hamas	Ismail Haniyeh	TBD	
Fatah	Mahmoud Abbas	TBD	
PFLP	Ahmad Sa'adat[a]	TBD	
PNI	Mustafa Barghouti	TBD	
Third Way	Salam Fayyad	TBD	
DFLP	Nayef Hawatmeh	TBD	
PPP	Bassam Al-Salhi	TBD	

This lists parties that won seats. See the complete results

第一の動きは、パレスチナ自治政府（PA）のアッバース大統領が、1月15日今年の総選挙を宣言したこと。自治区内の立法府であるパレスチナ立法評議会（PLC）の選挙を5月22日に、大統領選挙を7月31日に、更に全パレスチナの最高決議機関であるパレスチナ民族評議会（PNC）選挙を8月31日に行うとし、関連機関のその準備を指示したという。ハマース、PFLPを含むパレスチナ勢力も、その決定に賛意を表し、国連やEU、アラブ諸国も歓迎している。中でも大事なのはPLCである。2006年総選挙で、ハマースが過半数を占めて以来、米国・イスラエルのハマース排除の介入がファタハとハマースの対立に拍車をか

けて来た。16年ぶりの選挙となる。しかし、実現出来るか否か、不確定要素がある。ファタハとハマースの主導権・利害争いは、選挙のあり方を巡って深まるし、イスラエル・米欧によるハマース排除の妨害がある。

又すでにアッバース大統領は85歳であり、2005年の選挙当選の以降、大衆的信任を問うていない。ハマースのハニヤ政治局長が、大統領になる事を嫌い、イスラエルもファタハも選挙をやれずに来た。ファタハの対抗者は獄中のマルワン・バルグーティなら互角だろうか。

私は、PLO執行委員のハナン・アシュラウイ（かって「第三の道」党としてPLCに当選）に立候補して欲しい。又、ムスタファ・バルグーティ（パレスチナ民族イニシアチブ・PNI）は前回立候補したので、立候補するだろう。待ったなしのパレスチナ選挙。これを行わずには未来の全パレスチナの希望の一新は無い。しかも、不確かなまま、イスラエルの戦争による何時もの妨害もあり得る。

April 2019 Israeli legislative election

Parliament factions For a more comprehensive list, see List of political parties in Israel

The table below lists the parliamentary factions represented in the 20th Knesset.

Name	Ideology	Symbol	Primary demographic	Leader	2015 result Votes (%)	2015 result Seats	Seats at 2018 dissolution
Likud	National conservatism National liberalism	מחל		Benjamin Netanyahu	23.40%	30 / 120	30 / 120
Labor	Social democracy	אמת		Avi Gabbay	18.67%	18 / 120	19 / 120
Hatnua	Liberalism			Tzipi Livni		6 / 120	5 / 120
Joint List	Big tent	ודעם	Israeli Arabs	Ayman Odeh	10.54%	11 / 120	12 / 120
Ta'al	Arab nationalism		Israeli Arabs	Ahmad Tibi		2 / 120	1 / 120
Yesh Atid	Liberalism Secularism	פה		Yair Lapid	8.81%	11 / 120	11 / 120
Kulanu	Economic egalitarianism	כ		Moshe Kahlon	7.49%	10 / 120	10 / 120
Jewish Home	Religious Zionism Religious conservatism	טב	Modern Orthodox and Chardal Jews	Rafi Peretz	6.74%	8 / 120	5 / 120
Shas	Religious conservatism Populism	שס	Sephardic and Mizrahi Haredim	Aryeh Deri	5.73%	7 / 120	7 / 120
United Torah Judaism	Religious conservatism	ג	Ashkenazi Haredim	Yaakov Litzman	5.03%	6 / 120	6 / 120
Yisrael Beiteinu	Nationalism Secularism	ל	Russian speakers	Avigdor Lieberman	5.11%	6 / 120	5 / 120
Meretz	Social democracy Secularism	מרצ		Tamar Zandberg	3.93%	5 / 120	5 / 120
New Right	National conservatism Economic liberalism	נ		Naftali Bennett, Ayelet Shaked	N/A		3 / 120
Independent				Orly Levy	N/A		1 / 120

2021 Israeli election

Party leaders ahead of the 2021 elections (from left): Yair Lapid, Naftali Bennett, Benjamin Netanyahu, Gideon Sa'ar, Benny Gantz (Courtesy)

第二の動きは、イスラエルの国会解散、3月23日の総選挙である。ネタニヤフ首相は権力維持の為、トランプとの共謀で選挙をこれまで有利に進めて来た。2019年以来4回の総選挙となる。「ゴラン高原併合」「入極地併合」を「合意」と支援したネタニヤフを支援したトランプ米国大統領は去った。予算不成立やネタニヤフ汚職裁判など連立政権崩壊に至り、再びネタニヤフは首相の座を狙う。「青と白」は、ネタニヤフと連立する事を巡ってすでに分裂し弱体化した。リクード内では、昨年党首選挙で争っ

たギデオン・サマルが、「新しい希望」党を結成し、汚職裁判の始まるネタニヤフ批判で人気を得ているらしい。選挙を巡る政局は、「青と白」の失敗から、右派のリクード、リクード分派の「新しい希望」、極右のベネットのヤミーナ（前「ユダヤの家」）など結局右派が連立を再現する事になる。反ネタニヤフ連合が勝利しても、入極地併合を求める勢力であろう。

Mohammad Bagher Ghalibaf　Mahmoud Ahmadinejad　Ali Larijani　Eshaq Jahangiri　Mohammad-Javad Azari Jahromi　Mohammad Reza Aref

Six potential candidates for the 2021 presidential elections in Iran

2021 Iranian presidential election

第三の動きは、イランである。米国を省く「核合意」（JCPOA）の四ヵ国によるネット会合が昨年１２月に開かれたが進展は無かった。トランプの影響で、これまでの合意にプラスアルファ（ミサイル開発やイランのアラブ人民勢力の援助の停止など）が主張されるのを、イランは警戒し、合意変更拒否を鮮明にした。１月には、断固とした意志を示す為、ウラン濃縮の度合い２０％実施を表明した。

第四の動きは、イスラエルとアラブ諸国の国交正常化が、UAEに示されたように、準同盟国並みの全分野に広がり、イスラエルと湾岸諸国の財と技術、新自由主義経済圏の動きが始まっている事である。そして、第五に、サウジアラビアら四ヵ国が反イラン包囲・イスラエル共同の為に、カタールと国交正常化を果たした事である。カタールは、もともとバーレーン同様にサウジアラビアに併合されるのを嫌って、米軍基地を置き、イランと通商し、トルコの軍事基地もある。更に、サウジアラビアと対立するトルコの存在は、米国政府・EUとも対立しつつ、地域覇権を求める動きは、「ナゴルノ・カラバフ紛争」（アゼルバイジャンの西部）同様続くだろう。

こうした2021年の新しい動きは、2020年の新型コロナウイルス禍の情勢下での帰結である。それはトランプの「中東和平案」（トランプ政権の名を借りたネタニヤフ・シオニスト案）と、対イラン戦争包囲に特徴付けられる。20年1月ソレイマニ司令官殺害、対イラン核施設への爆破、核物理学者殺害と、米国・イスラエルの挑発が続いた。戦争挑発に反応するイタン軍を叩き潰すことで、トランプ大統領再選の夢を描いたかも知れない。「反イラン包囲」の名で、イスラエルとアラブ諸国の国交正常化は一部実現した。これは、古くからの米国・シオニスト・イスラエルの「戦略プラン」である。すなわち、中東地域に於ける西欧型資本主義の経済・軍事・技術・文化中心としてのイスラエルを育成すること。イスラエルの安全保障上、占領地の必要性を認めたまま、アラブ諸国との国交を正常化させる。

「パレスチナ問題」は、地域のアジェンダとして「非武装」のパレスチナ人居住区を確定し「アラ

ブ・イスラエル紛争」を終わらせる。その形は「自治」でも「国家」でも統制出来る。「パレスチナ難民問題」は、彼らの住む国に同化させ、国籍を与えて終わりとする。エルサレムは、イスラエルの主権の下でイスラエル・ヨルダン・サウジアラビア・パレスチナを含む管理委員会をもって、イスラーム聖地を維持させる。

Ze'ev Jabotinsky

私は、パレスチナ解放闘争・シオニズムの歴史を記しながら、上記のようなシオニスト戦略は元から明瞭であったと分析してきた。これは現代の「鉄壁戦略」である。イスラエルを不動の強国化し、アラブ側が手も足も出ない状態にして於いて、「和平」を考えるという、かつてジャボチンスキーがパレスチナ住民たち、アラブ人たちを描いた図である。それは「パレスチナ」では無く、「アラブ諸国」に適用する現代版である。ジャボチンスキーは，自力強国化を説いたが、現在のシオニスト強国は米国政府と国際ユダヤ資本の力によって立っている。

２０２１年中東は胎動を開始している。ロシア・トルコ・イラン・イスラエルの絡み合った動きが地中海から紅海ペルシャ湾まで危機にある。バイデン米国大統領の中東政策は、オバマのそれよりも期待出来ない。バイデン政権は、トランプによる行き過ぎた親イスラエル政策を踏襲する事も多いだろう。

だからこそ、パレスチナ側は、原則的な反占領の闘いと民族統一選挙を力に未来を再構築すること、米国で無く国連総会を基盤に政治的再生から和平を拓くことだ。